

国際日本研究専攻前期

専攻共通科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR001	プロジェクト演習1	2	3.0	1	通年	応談		国際日本研究専攻全教員	受講者は、自らの研究プロジェクトを指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、そのプロポーザルを発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究、主要な素材を提示するとともに、今後の原著的な研究のための研究計画を提示する。	
01DR002	プロジェクト演習2	2	3.0	2	通年	応談		国際日本研究専攻全教員	受講者は、自らの研究プロジェクトの中間報告を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究と自らの議論との違いと共通点、主要な素材の分析を提示するとともに、今後の原著的な研究のための執筆計画を提示する。また、中間報告を終え修士論文を提出した後は、その内容に関して口頭試問を行う。	
01DR003	大学院入門演習1	2	1.0	1	春AB	応談		国際日本研究専攻全教員	受講者は論文の執筆方法、文献の引用の仕方、研究者としての倫理・モラル(絶対に無断引用しないなど)等について基本的な事項を学んだ上で、自らの研究テーマをどのように選び、深めていけばよいか、そのことで学会や実社会にどのように貢献するか、講義、発表等を通じて学習していく。	履修希望者はあらかじめ事務室に照会すること。 office@japan.tsukuba.ac.jp
01DR004	大学院入門演習2	2	1.0	1	秋AB	応談		国際日本研究専攻全教員	受講者は論文の執筆方法、文献の引用の仕方、研究者としての倫理・モラル(絶対に無断引用しないなど)等について基本的な事項を学んだ上で、自らの研究テーマをどのように選び、深めていけばよいか、そのことで学会や実社会にどのように貢献するか、講義、発表等を通じて学習していく。	履修希望者はあらかじめ事務室に照会すること。 office@japan.tsukuba.ac.jp
01DR005	プロジェクト演習2A	2	3.0	2	春ABC	応談		国際日本研究専攻全教員	受講者は、自らの研究プロジェクトの中間報告を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究と自らの議論との違いと共通点、主要な素材の分析を提示するとともに、今後の原著的な研究のための執筆計画を提示する。また、中間報告を終え修士論文を提出した後は、その内容に関して口頭試問を行う。(既に中間報告を行った者のみが履修可。ただし、学位プログラムリーダーが必要と判断した場合、再度中間報告を行うこと。修士論文提出後、口頭試問を行う。)	9月修了予定者向け。 既に中間報告を行った者のみが履修可。指導教員の許可が必要。
01DR006	プロジェクト演習2B	2	3.0	2	秋ABC	応談		国際日本研究専攻全教員	受講者は、自らの研究プロジェクトの中間報告を、指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、その研究成果を発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究と自らの議論との違いと共通点、主要な素材の分析を提示するとともに、今後の原著的な研究のための執筆計画を提示する。また、中間報告を終え修士論文を提出した後は、その内容に関して口頭試問を行う。(既に中間報告を行った者のみが履修可。ただし、学位プログラムリーダーが必要と判断した場合、再度中間報告を行うこと。修士論文提出後、口頭試問を行う。)	3月修了予定者向け。 既に中間報告を行った者のみが履修可。指導教員の許可が必要。
01DR007	プロジェクト演習1A	2	3.0	1	春ABC	応談		国際日本研究専攻全教員	受講者は、自らの研究プロジェクトを指導教員(複数)との討議や協議の中で、作成し、そのプロポーザルを発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究、主要な素材を提示するとともに、今後の原著的な研究のための研究計画を提示する。(プロジェクト演習1(通年)を履修できなかった者のみ対象。)	指導教員の許可が必要。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR008	プロジェクト演習1B	2	3.0	1	秋ABC	応談		国際日本研究専攻 全教員	受講者は、自らの研究プロジェクトを指導教員(複数)との討議や協議の中で作成し、そのプロポーザルを発表する。基本的な議論の枠組み、主要な先行研究、主要な素材を提示するとともに、今後の原著的な研究のための研究計画を提示する。(プロジェクト演習1(通年)を履修できなかった者のみ対象。)	指導教員の許可が必要。

専門基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR032	国際日本研究のための日本語	1	1.0	1・2	秋AB	火1		田川 寛之	日本語で修士論文を執筆することを目指す留学生や日本語非母語話者を対象として、日本語を通じて、研究対象・研究方法をめぐる着想・着眼、資料の収集や情報の探索をめぐる適切な手法、参考文献の探し方・読み方、研究発表の望ましい方法など、研究を推進し論文を執筆するために必要な知識について講義を通じて議論し、各自の基礎的な能力開発を図る。	(日本語、英語、中国いずれか1科目を選択必修) 英語で授業。OABE001と同一。
01DR033	国際日本研究のための英語	1	1.0	1・2	秋AB	金4		田川 寛之	この授業は、英語非母語話者を主たる対象とし、修士論文や学術雑誌投稿論文を英語で執筆することを念頭におき、研究対象の設定や研究方法論、資料収集・情報探索、文献のレビュー、英文アカデミックライティングの基礎など、論文を書くために必要な知識について講義を通して議論し、各自の基礎的な能力開発を図る。	(日本語、英語、中国いずれか1科目を選択必修) 英語で授業。OABE002と同一。
01DR034	国際日本研究のための中国語	1	1.0	1・2	秋AB	応談		佐藤 貢悦	以中文討論説明研究方法、資料収集、文献探討等撰寫論文所需的知識。	履修者は国際日本研究専攻前期課程在籍者に限る。履修希望者は、事前に担当教員に連絡。(日本語、英語、中国いずれか1科目を選択必修) 中国語で授業。
01DR036	リサーチ・プログラム特別開発1	2	1.0	1・2	春ABC	応談		国際日本研究専攻 全教員	本科目は英語等外国語による優秀な学術業績の成果産出を促す目的から開講するものであり、学生は指導教員および専攻長に履修の意思を示し、専攻教育会議において履修の適切性が審議・承認された場合において、その履修が認められる。 学生は自らの研究テーマに関して、専攻長、指導教員、学位プログラム代表者等の指示する教材、文献、各種資料などを広く学習しつつ、海外の関連学会・シンポジウム・学術会議・公開講座等に参加のうえ発表をおこない、その発表詳細および学習成果について総括レポートを作成する。レポートは通常10回分の講義および予復習、外国語運用能力の向上に資する程度の質と量を必要とする。 学生は総括レポートを必ず指導教員および専攻長に報告し、そのレポートに記載された研究の進捗状況および学習内容は専攻において審査される。審査の結果「可」の判断が与えられた場合、1.0単位が付与される。	申請・許可が必要(特別演習)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR037	リサーチ・プログラム特別開発2	2	1.0	1・2	秋ABC	応談		国際日本研究専攻 全教員	<p>本科目は英語等外国語による優秀な学術業績の成果産出を促す目的から開講するものであり、学生は指導教員および専攻長に履修の意思を示し、専攻教育会議において履修の適切性が審議・承認された場合において、その履修が認められる。</p> <p>学生は自らの研究テーマに関して、専攻長、指導教員、学位プログラム代表者等の指示する教材、文献、各種資料などを広く学習しつつ、海外の関連学会・シンポジウム・学術会議・公開講座等に参加のうえ発表をおこない、その発表詳細および学習成果について総括レポートを作成する。レポートは通常10回分の講義および予復習、外国語運用能力の向上に資する程度の質と量を必要とする。</p> <p>学生は総括レポートを必ず指導教員および専攻長に報告し、そのレポートに記載された研究の進捗状況および学習内容は専攻において審査される。審査の結果「可」の判断が与えられた場合、1.0単位が付与される。</p>	申請・許可が必要(特別演習)

専門科目(ディシプリン共通科目)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR061	リサーチ・プログラム開発1	2	2.0	1	春AB	応談		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タツク, 小野 正樹, 崔 宰榮, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァンバーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	<p>自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がいる。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がいる。許可があれば、同一の研究 テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができる。</p>	事前に申請・許可が必要。 OABE300と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR062	リサーチ・プログラム開発2		2	2.0	1	春AB	応談	白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タツク, 小野 正樹, 崔 宰榮, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァン パーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がいる。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がいる。許可があれば、同一の研究 テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1」とは別のものでなくてはならない。	事前に申請・許可が必要。 OABE301と同一。
01DR063	リサーチ・プログラム開発3		2	2.0	1	秋AB	応談	白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タツク, 小野 正樹, 崔 宰榮, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァン パーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がいる。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がいる。許可があれば、同一の研究 テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1, 2」とは別のものでなくてはならない。	事前に申請・許可が必要。 OABE302と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR064	リサーチ・プログラム開発4		2	2.0	1	秋AB		白戸 健一郎, 生藤 昌子, 伊藤 秀明, 関 能徳, 文 昶允, 津城 寛文, 平山 朝治, 根本 信義, 田中 洋子, 一二三 朋子, 木戸 光子, 平沢 照雄, 柴田 政子, 石塚 修, 川崎 レスリー タツク, 小野 正樹, 崔 宰榮, 井出 里咲子, 松崎 寛, 平石 典子, 海後 宗男, 高木 智世, 明石 純一, 大友 貴史, 福住 多一, 潘 亮, ブッシュネル ケード コンラン, 宮坂 渉, 関崎 博紀, 山本 英弘, ルート ヴァン パーレン, 巖 錫仁, 高橋 秀直	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員に報告し、学習の進捗状況について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本演習は早期修了予定者が修士論文作成に必要な知識を習得することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員の許可がいる。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本演習を受講したい者は、事前に指導教員、学位プログラムリーダーの承諾がいる。許可があれば、同一の研究 テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートは「リサーチ・プログラム開発1, 2, 3」とは別のものでなくてはならない。	事前に相談・許可が必要。 OABE303と同一。
01DR065	リサーチ・プログラム開発5		2	2.0	2	春AB		国際日本研究専攻 全教員	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が見望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗状況について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がいる)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がいる。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が見望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がいる。許可があれば、同一の研究 テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートはそれぞれ別のものでなくてはならない。	事前に申請・許可が必要。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR066	リサーチ・プログラム開発6	2	2.0	2	春AB	応談		国際日本研究専攻 全教員	<p>自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。</p> <p>本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。許可があれば、同一の研究テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートはそれぞれ別のものでなくてはならない。</p>	事前に申請・許可が必要。
01DR067	リサーチ・プログラム開発7	2	2.0	2	秋AB	応談		国際日本研究専攻 全教員	<p>自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などをはば広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義 および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。</p> <p>本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。許可があれば、同一の研究テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートはそれぞれ別のものでなくてはならない。</p>	事前に相談・許可が必要。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR068	リサーチ・プログラム開発8		2	2.0	2	秋AB		国際日本研究専攻 全教員	自らの研究テーマに関して指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。許可があれば、同一の研究テーマで複数の「リサーチ・プログラム開発」授業・演習を履修することができるが、「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録される学習内容、レポートはそれぞれ別のものでなくてはならない。	事前に相談・許可が必要。

専門科目(複合科目基礎)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR091	リサーチ・プログラム開発複合1		2	2.0	1	春AB			複合学位プログラムに関する研究テーマを選んだ学生のみが履修できる。指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。	複合領域教員。事前に申請・許可が必要。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR092	リサーチ・プログラム開発複合2	2	2.0	1	秋AB	応談			複合学位プログラムに関する研究テーマを選んだ学生のみが履修できる。指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の指定する学習教材、文献、各種資料などを幅広く集中的に学習し、また関連する学会、シンポジウム、会議、公開講座等に参加し、そこでの学習成果を「リサーチ・プログラム開発ノート」に記録する。それを指導教員、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)に報告し、学習の進捗度について指導を受ける。学習の進捗状況、学習内容について「可」としての判断が出た場合、最終レポートを執筆し、レポートが合格になれば単位が与えられる。学習内容、レポートは通常の10回分の講義および予復習を通じて身につけられる程度に相当する質と量が必要である。レポートおよび「リサーチ・プログラム開発ノート」はウェブ上で公開することを原則とする。本講義・演習は早期修了予定者(これも事前に承諾がある)が履修することを念頭に置いて開講するものであり、履修に先立っては、指導教員および学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)の許可がある。早期修了予定者以外の学生で特別な理由があり、本講義・演習を受講したい者は、事前に指導教員(複数が望ましい)、学位プログラム代表者(サブ、カリキュラム責任者を含む)、専攻長の承諾がある。	複合領域教員。事前に申請・許可が必要。

専門科目(国際日本文科学学位プログラム)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR541	比較東洋思想1A	1	1.0	1・2					「家」、「家族」など基本的な概念について検討し、さらに中国を主たる対象とする家庭教育の課題について考察する。	西暦奇数年度開講。01DR302と同一。
01DR542	比較東洋思想1B	2	1.0	1・2					日中韓の比較文化論に関する諸問題について考察する。	西暦奇数年度開講。
01DR543	比較東洋思想2A	1	1.0	1・2	春AB	水6		佐藤 貢悦	日中韓の比較文化論に関する諸問題について考察する。	西暦偶数年度開講。
01DR544	比較東洋思想2B	1	1.0	1・2	春AB	木2		佐藤 貢悦	アジアと日本および欧米の比較文化論を用い、その特有の心理・身体の形成について考察する。	西暦偶数年度開講。01DR342と同一。
01DR545	日本社会と宗教1A	1	1.0	1・2					社会の中の特定の個人の思想や宗教ではなく、無名の集合的な原思想、原宗教を、検討対象とする。日本人論の中の、国民性、倫理観、美意識、神聖観(感)などがおもしろい話題となる。その背景にある、歴史的、地理的な要因について、歴史学、人類学、民俗学、神話学、言語学などの知見を活用する。明確な教義や組織のない、日本の宗教状況を、これらのゆるやかな集合体として把握することを試みる。	OABE017と同一。2020年度開講せず。
01DR546	日本社会と宗教1B	2	1.0	1・2					社会の特定の個人の思想や宗教ではなく、無名の集合的な原思想、原宗教を対象とする。民俗学、人文地理学、文学研究、芸術研究、異文化研究の一部が探求してきた、「懐かしさ」という感情に焦点を絞り、原風景、原体験などがおもしろい話題となる。	西暦奇数年度開講。
01DR547	日本社会と宗教2A	1	1.0	1・2	春AB	火4		津城 寛文	社会の中の特定の個人の思想や宗教ではなく、無名の集合的な原思想、原宗教を、検討対象とする。日本人論の中の、国民性、倫理観、美意識、神聖観(感)などがおもしろい話題となる。その背景にある、歴史的、地理的な要因について、歴史学、人類学、民俗学、神話学、言語学などの知見を活用する。明確な教義や組織のない、日本の宗教状況を、これらのゆるやかな集合体として把握することを試みる。「日本社会と宗教1A」とは異なるトピックスも扱う。	西暦偶数年度開講。OABE318と同一。
01DR548	日本社会と宗教2B	2	1.0	1・2	秋AB	火3		津城 寛文	社会の特定の個人の思想や宗教ではなく、無名の集合的な原思想、原宗教を対象とする。民俗学、人文地理学、文学研究、芸術研究、異文化研究の一部が探求してきた、「懐かしさ」という感情に焦点を絞り、原風景、原体験などがおもしろい話題となる。	西暦偶数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR549	朝鮮半島の思想と文化1A	1	1.0	1					中国・韓国(朝鮮半島)・日本の東アジア地域は、古くから漢字文化圏、それにちなんで儒教文化圏とも呼ばれてきた。本授業では、東アジアにおける儒教思想、特に中国宋代の新儒学の勃興以降の展開と特徴を比較的な観点で考察することを目的とする。とりわけここでは、韓国の儒学思想史を対象として、檀君神話や新羅の花郎道にみえる思想的な特徴、三国時代と高麗期において仏教が思想的な主流をなしているなかでの儒学思想の展開様相と役割、そして高麗後期に受容された朱子学の展開様相などを概観する。朱子学の展開様相では、高麗・朝鮮の易姓革命をめぐる朱子学の担い手である新進士大夫たちの理念と行動、それに基づく朝鮮時代初期の官学派と士林派の葛藤と展開、その中に現れている朝鮮儒学の特徴などを考察する。	いずれも2~6時限。 OABE019と同一。 2020年度開講せず。
01DR550	朝鮮半島の思想と文化1B	2	1.0	1	秋AB	火5		巖 錫仁	朝鮮半島についての研究文献を講読し、その思想と文化について議論する。	西暦偶数年度開講。
01DR551	日本文化と経済思想1A	1	1.5	1・2					人類(ホモ・サピエンス)の社会・経済・家族の普遍的な特質を霊長類進化の観点からとらえたうえで、日本の貨幣経済やそれと関連の深いイエ(日本の「家」)の成立をもたらしした思想の伝播を解明する。	西暦奇数年度開講。 01DR303と同一。
01DR552	日本文化と経済思想1B	2	1.5	1・2					日本の経済思想やイエ(「日本の家」)の特質がどのように形成されたのかをみる。	西暦奇数年度開講。 01DR304と同一。
01DR553	日本文化と経済思想2A	1	1.5	1・2	春ABC	月4			日本文化の個性と普遍性を明らかにすることを目標に、言語ゲーム論や解釈学を手がかりに、文化相対主義や文明の対立を超える普遍的価値を探る。	西暦偶数年度開講。
01DR554	日本文化と経済思想2B	2	1.5	1・2	秋ABC	月4			日本文化の個性と普遍性を明らかにすることを目標に、合理的経済人仮説を批判し、言語ゲーム論などによって社会経済をとらえる。	西暦偶数年度開講。
01DR555	日本文化と世界1A	1	1.0	1・2	春AB	水3		渡部 宏樹	2020年度春学期はアカデミックな実践としての映像コンテンツ制作を行う。自身の研究内容と関連する日本の文化・社会での出来事、あるいは日本社会で起きている文化社会現象を調査し、映像コンテンツを作る。	西暦偶数年度開講。
01DR556	日本文化と世界1B	1	1.0	1・2					2020年度春学期はアカデミックな実践としての映像コンテンツ制作を行う。自身の研究内容と関連する日本の文化・社会での出来事、あるいは日本社会で起きている文化社会現象を調査し、映像コンテンツを作る。	西暦奇数年度開講。
01DR557	日本の表象文化1A	1	1.0	1・2	秋AB	水3		渡部 宏樹	家族を描いた日本映画を見て、第二次世界大戦後の日本社会の変化と家族の表象を変遷を学ぶ。	西暦偶数年度開講。 01DR323と同一。
01DR558	日本の表象文化1B	1	1.0	1・2					家族を描いた日本映画を見て、第二次世界大戦後の日本社会の変化と家族の表象を変遷を学ぶ。	西暦奇数年度開講。 01DR324と同一。
01DR559	日本文化と経済思想4	1	1.0	1・2	秋AB	月4		平山 朝治	日本の文明化のプロセスと日本文明の特性を、比較歴史制度分析の視点からとらえることを目指す。自由民による支配者選択の伝統、華帝国の藩王としての大王、聖徳太子とは何者か、国家神道は護国仏教の邦訳版、仏教による荒ぶる神々の鎮撫、普遍と特殊が天皇制で交錯する、思想史的巨人としての空海、怒しの契機を孕む怨霊思想、荘園制の下での文明の成熟、日本的なタテ関係の「やさしさ」、慈悲は法より優先される、産業発展の求心性という伝統、一揆と革命の違い、神道は「日本らしい」か、「日本らしさ」の現代的意味、といった論点を、平山朝治『「日本らしさ」の地層学』(情況出版、1993年、 http://hdl.handle.net/2241/00126546)をテキストとして講義する。	西暦偶数年度開講。 OABE321と同一。
01DR581	比較文学論1A	1	1.0	1・2					翻訳理論を学びながら、日本文学の翻訳について考察する。	西暦奇数年度開講。 01DR427と同一。
01DR582	比較文学論1B	2	1.0	1・2					比較文学の手法を用いて、日本文学について考察する。	西暦奇数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR583	比較文学論2A	1	1.0	1・2	春AB	木4		平石 典子	近現代の文学を研究対象として取り扱う際、海外の文化や文学との交流や影響関係を考えることは大変重要である。本授業は、比較文学の手法を学ぶことによって、近・現代文学研究における新たな視野を獲得することを目的とする。内外の研究者による、ジェンダー理論やポストコロニアル理論を用いたテキスト研究の具体例に触れ、こうした研究に関する知識を得ることで、比較文学研究の視点を体得し、履修者の修士論文に向けての研究に生かす。「比較文学論1A,1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OABE322と同一。
01DR584	比較文学論2B	2	1.0	1・2	秋AB	木4		平石 典子	比較文学の手法を用いて、日本文学について考察する。	西暦偶数年度開講。
01DR587	比較文学論4A	1	1.0	1・2					This course is designed to be a survey of modern Japanese fiction and culture. It aims: ・ to introduce you to a variety of Japanese fiction, written from the beginning of the Meiji period to the end of World War II (1868-1945). ・ to help you improve your skills in reading and analyzing Japanese literary texts. ・ to help you understand the concerns and perspectives of the authors and the major ideas that have helped to shape modern Japanese culture and society.	西暦偶数年度開講。 2020年度開講せず。
01DR588	比較文学論4B	2	1.0	1・2					This course is designed to be a survey of modern Japanese fiction and culture. It aims: ・ to introduce you to a variety of Japanese fiction, written after the end of World War II (1945-present). ・ to help you improve your skills in reading and analyzing Japanese literary texts. ・ to help you understand the concerns and perspectives of the authors and the major ideas that have helped to shape modern Japanese culture and society.	西暦偶数年度開講。 2020年度開講せず。
01DR593	日本文化研究1A	1	1.0	1・2					世界的にみても、ある文学作品が発生するのは、その国家・民族の文化活動の一環であることはいうまでもないことである。本講義では日本文学古典作品について文学史の基本的事項をふまえながらカルチュラルスタディーズの手法を応用しつつ、受講する大学院生の研究対象に即して、研究の指導を適宜発表の形式も交えながら行っていく。	OABE022と同一。 2020年度開講せず。
01DR594	日本文化研究1B	2	1.0	1・2					日本文化研究1Aと関連させて、日本文学と文化の関係について茶の湯を通して考察していく。	西暦奇数年度開講。
01DR595	日本文化研究2A	1	1.0	1・2	春AB	月4		石塚 修	世界的にみても、ある文学作品が発生するのは、その国家・民族の文化活動の一環であることはいうまでもないことである。本講義では日本文学古典作品について文学史の基本的事項をふまえながらカルチュラルスタディーズの手法を応用しつつ、受講する大学院生の研究対象に即して、研究の指導を適宜発表の形式も交えながら行っていく。「日本の文化と文芸1A,1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OABE324と同一。
01DR596	日本文化研究2B	2	1.0	1・2	秋AB	月4		石塚 修	日本文化について、茶の湯の描かれた文学を通して理解をふかめる。	西暦偶数年度開講。
01DR640	広告と消費文化B	1	1.0	2	秋A	集中	人社A422		消費社会における広告の効果について、その記号的意味を考察する。	
01DR646	国際ジャーナリズム論1A	1	1.0	1					全国紙で事件記者と海外特派員(ジュネーブ、ブリュッセル、パリ)をそれぞれ15年間務めた教員の経験をもとに、まずは現場から見た日本の報道一般/国際報道の基本的な問題点を考えていきたい。そのうえで、海外(主に欧米)メディアによる国際報道にも視野を広げ、欧米著名ジャーナリストによる労作も読み解く。	2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR647	国際ジャーナリズム論1B	2	1.0	1					全国紙で事件記者と海外特派員(ジュネーブ、ブリュッセル、パリ)をそれぞれ15年間務めた教員の経験をもとに、まずは現場から見た日本の報道一般/国際報道の基本的な問題点を考えていきたい。そのうえで、海外(主に欧米)メディアによる国際報道にも視野を広げ、欧米著名ジャーナリストによる労作も読み解く。	2020年度開講せず。
01DR650	ニューメディア論A	2	1.0	1	春AB	火6		海後 宗男	この授業では、メディアとコミュニケーションの研究方法に関する文献を輪読します。主にメディア研究方法について学習します。	西暦偶数年度開講。
01DR651	ニューメディア論B	2	1.0	1	秋AB	火6		海後 宗男	This is a graduate level course taught in English for students who wish to learn about media research methods.	西暦偶数年度開講。
01DR653	メディア思想と日本社会1B	2	1.0	1・2					複数の事例から、広告の効果と一般的宣伝論について学ぶ。	西暦奇数年度開講。
01DR654	比較メディア思想A	1	1.0	1・2	春AB	火5		白戸 健一郎	本授業は、メディア研究の生成とその歴史的社会的背景について、新聞・映画・ラジオ・テレビなどの各メディアとの比較メディア史的観点及び欧米やアジア諸国と日本との国際比較の観点から、考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究やメディアを考察するメディア思想にはそのような社会現象が強く刻印されている。メディア研究やメディア思想への考察から、社会や政治や文化の国ごとの特質や共通性について理解できるようになる。授業はメディア史やメディア思想に関する適切なテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつうじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。	西暦偶数年度開講。 OABE032と同一。

専門科目(国際日本社会科学学位プログラム)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR106	グローバル日本政治(対外関係)1A	1	1.0	1・2					This course examines the historical background of modern Japanese foreign relations with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged. Those who are taking this course shall also take 日本社会と外交1B (01DR316).	西暦奇数年度開講。 01DF596, 01DR315, 01DR472, 01DZ562と同一。
01DR107	グローバル日本政治(対外関係)1B	1	1.0	1・2					This course examines Japanese foreign relations during and after the Cold War era with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged. Those who are taking this course shall also take 日本社会と外交1A (01DR315).	西暦奇数年度開講。 01DF597, 01DR316, 01DR473, 01DZ563と同一。
01DR110	グローバルガバナンス(国際関係論)1A	1	1.0	1・2					The aim of this course is to introduce students to some of the main theories of international relations.	西暦奇数年度開講。 01DP461, 01DZ104と同一。
01DR111	グローバルガバナンス(国際関係論)1B	2	1.0	1・2					The aim of this course is to introduce students to some of the main theories of international relations.	西暦奇数年度開講。 01DP462, 01DZ105と同一。
01DR112	グローバルガバナンス(国際関係論)2A	1	1.0	1・2	春AB	火3		大友 貴史	The aim of this course is to introduce students to some of the main theories of international relations.	西暦偶数年度開講。 01DP463, 01DZ106と同一。
01DR113	グローバルガバナンス(国際関係論)2B	2	1.0	1・2	秋AB	木2		大友 貴史	The aim of this course is to introduce students to some of the main theories of international relations.	西暦偶数年度開講。 01DP464, 01DZ107と同一。
01DR116	グローバル社会と情報1A	4	1.0	1・2					The main goals of this course are to introduce students to the major theoretical streams in public policy and policymaking, as well as explore approaches to public policy research that combine policy and political analysis. The fundamental goal of public policy is problem-solving, and that is also the main objective of the class. Together, we will explore how this goal is accomplished. We will do so by identifying the relevant policy actors and institutions, policy needs and constraints, and, ultimately, why some public policies succeed and others fail.	西暦奇数年度開講。 01DF294, 01DR718, 01DZ540, 01EH037と同一。 英語で授業。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR117	グローバル社会と情報1B	4	1.0	1・2					The main goals of this course are to introduce students to the major theoretical streams in public policy and policymaking, as well as explore approaches to public policy research that combine policy and political analysis. The fundamental goal of public policy is problem-solving, and that is also the main objective of the class. Together, we will explore how this goal is accomplished. We will do so by identifying the relevant policy actors and institutions, policy needs and constraints, and, ultimately, why some public policies succeed and others fail.	西暦奇数年度開講。01DF295, 01DP719, 01DZ542, 01EH069と同一。英語で授業。
01DR119	グローバル社会と情報2B	4	1.0	1・2	春AB	応談		川崎 レスリー タック	The main goals of this course are to introduce students to the major theoretical streams in public policy and policymaking, as well as explore practical approaches to public policy.	Thu. 4 西暦偶数年度開講。01DF297, 01DP729, 01DZ544と同一。英語で授業。
01DR120	日本社会と計量分析1A	1	1.0	1・2	春AB	月2		崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、分析に用いるデータの調査方法と、計量分析ツールを正しく使うための基礎統計の概念について講義する。講義内容は、計量分析の概要、基礎集計(度数分布)、記述統計(代表値、散布度)など統計の基本概念を理解し、計量分析2Aを勉強するための土台作りを行う。	OABE052と同一。
01DR121	日本社会と計量分析1B	1	1.0	1・2	春AB	水2	8B201	崔 宰栄	計量分析は、溢れる情報からの物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、分析データの調査方法と、計量分析ツールを正しく使うための基礎統計や使い方について講義する。そのため、日本社会と計量分析1Aで学んだ知識(基礎集計、記述統計)を土台とし、関連分析(相関分析、回帰分析)を中心とした、計量分析の入門的な概念を理解し、発展させる。	01DF293, 01DP567と同一。
01DR122	日本社会と計量分析演習1A	2	1.0	1・2	春AB	月3	8B201	崔 宰栄	統計分析用ソフトSPSSを使用して、計量分析に要する一連の分析プロセスを学ぶ。本授業では、SPSSの基本操作(データ加工・整理・基本集計など)を学び、日本社会と計量分析演習1Bでの高度な分析を行うための土台作りを行う。	
01DR123	日本社会と計量分析演習1B	2	1.0	1・2	春AB	木3		崔 宰栄	計量分析は、社会の様々な分野での諸現象や実態を取り巻く溢れる情報から、現象や実態の把握、物事の意味付け、簡略化、客観化、推定等のため、多くの分野で用いる分析ツールの一つである。この授業では、計量分析2Aに相当する知識(相関分析、回帰分析)をベースに、分析に用いる計量分析ツールの正しい使い方を講義する。講義内容は、統計分析用ソフトSPSS(場合によっては、エクセルを並行)を用いて、計量分析1Bで学んだSPSSの基本操作(データ加工・整理・基本集計など)を土台とし、高度な分析(相関分析、回帰分析、因子分析、各種検定など)を行う。	OABE353と同一。
01DR124	グローバル政治と日本社会(国際人口移動論)1A	1	1.0	1・2					現代の移民・難民問題、および国際人口移動に関する理論、政策、ガバナンスについて考察する。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	西暦奇数年度開講。
01DR125	グローバル政治と日本社会(国際人口移動論)1B	1	1.0	1・2					This course aims to examine cotemporary migration issues. Participants will read and discuss major topics on migration theories, policies, politics, and governances from the perspectives of political sciences and international relations.	西暦奇数年度開講。
01DR128	日本社会と公共経済1A	1	1.0	1・2					日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	西暦奇数年度開講。
01DR129	日本社会と公共経済1B	2	1.0	1・2					日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	西暦奇数年度開講。
01DR130	日本社会と公共経済2A	1	1.0	1・2					日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	西暦奇数年度開講。
01DR131	日本社会と公共経済2B	2	1.0	1・2					日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	西暦奇数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR132	日本社会と公共経済3A	1	1.0	1・2	春AB	火4		仲 重人	日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	西暦偶数年度開講。
01DR133	日本社会と公共経済3B	2	1.0	1・2	秋AB	火4		仲 重人	日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	西暦偶数年度開講。
01DR134	日本社会と公共経済4A	1	1.0	1・2	春AB	木4		仲 重人	日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	西暦偶数年度開講。
01DR135	日本社会と公共経済4B	2	1.0	1・2	秋AB	木4		仲 重人	日本社会における公共経済学・公共選択論および関連分野のトピックについて検討します。	西暦偶数年度開講。
01DR136	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)1A	1	1.0	1・2					この授業は講義形式で行う。目標として、まずミクロ経済理論の基本を理解する。そしてこの理論の経済現象への典型的な応用研究例を学ぶ。ミクロ理論の内容は、完全競争市場における家計と企業の理論及びこれらの双対理論、完全競争市場における市場均衡点の性質である。これらを学んだうえで、部分均衡に関する実験経済学、需要の価格弾力性の実証研究、生産関数・費用関数の実証研究、経済厚生上の租税の転嫁と帰着、国際貿易理論などの基礎的な研究例を紹介する。	OABE060と同一。 2020年度開講せず。
01DR137	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)1B	2	1.0	1・2					日本社会におけるゲーム理論と社会科学への応用例を演習形式で討議する。	西暦奇数年度開講。
01DR138	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)2A	1	1.0	1・2	春AB	火3		福住 多一	ゲーム理論と社会科学への応用例を学ぶ。特に日本社会におけるケースを講義する。	西暦偶数年度開講。
01DR139	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)2B	2	1.0	1・2	春AB	火4		福住 多一	日本社会におけるゲーム理論と社会科学への応用例を演習形式で討議する。	西暦偶数年度開講。
01DR140	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)3A	1	1.0	1・2					この講義ではミクロ経済学の中級レベルの理論と、その応用が紹介される。理論のトピックスは一般均衡理論と不完全競争市場の理論からなる。この講義の目標は、これらの理論を用いて、以下の経済現象を分析することである。一般均衡理論においては、動学的なマクロ経済モデルが紹介され、それを用いて社会保障問題が検討される。不完全競争市場の理論では、企業の独占的競争理論が扱われ、それが景気循環のマクロ経済モデルに応用される。	OABE061と同一。 2020年度開講せず。
01DR141	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)3B	2	1.0	1・2					日本社会におけるゲーム理論と社会科学への応用例を演習形式で討議する。	西暦奇数年度開講。
01DR142	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)4A	1	1.0	1・2	秋AB	火3		福住 多一	ゲーム理論と社会科学への応用例を学ぶ。特に日本社会におけるケースを講義する。	西暦偶数年度開講。
01DR143	グローバル政治と日本社会(ゲーム理論と日本社会)4B	2	1.0	1・2	秋AB	火4		福住 多一	日本社会におけるゲーム理論と社会科学への応用例を演習形式で討議する。	西暦偶数年度開講。
01DR144	グローバル社会の比較政治1A	1	1.0	1・2	春AB	火3		関 能徳	本講義では、比較政治学における主要な研究課題を、英文学術誌に出版された論文の精読を通して概観する。扱う研究課題は、政治体制論、体制変動論、マクロ政治システム、政党、脱工業化期の政治、政治行動論などである。これらのテーマを素材に、比較政治学の主要な概念や理論を学ぶことを通して、比較政治分野での研究設計について理解を深める。	西暦偶数年度開講。 OABE043と同一。
01DR145	グローバル社会の比較政治1B	1	1.0	1・2	秋AB	火3		関 能徳	比較政治の主要な概念や理論を、英語文献の精読を通して学習する。講義で扱う具体的なテーマは、政治現象の科学的研究に関する方法論、近代国家の起源、民主制と独裁、民主化などである。これらのテーマを素材に、比較政治学の主要な概念や理論を学ぶことを通して、比較政治分野での研究設計について理解を深める。	西暦偶数年度開講。 OABE042と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR146	グローバル社会の比較政治2A	1	1.0	1・2	春AB	火4		関 能徳	世界および日本における政治現象や政治的諸課題について、比較政治学の観点から量的・質的に研究するために必要な視点・分析枠組・因果推論のあり方について、有力な先行研究を紹介しながら幅広く議論する。	西暦偶数年度開講。
01DR147	グローバル社会の比較政治2B	1	1.0	1・2	秋AB	火4		関 能徳	世界および日本における政治現象や政治的諸課題について、比較政治学の観点から量的・質的に研究するために必要な視点・分析枠組・因果推論のあり方について、有力な先行研究を紹介しながら幅広く議論する。	西暦偶数年度開講。
01DR148	グローバル社会の比較政治3A	1	1.0	1・2					比較政治に関する文献を手がかりとして、世界および日本における政治現象や政治的諸課題を比較研究するために必要な視点・分析枠組・因果推論の基礎を紹介する。	西暦奇数年度開講。
01DR149	グローバル社会の比較政治3B	1	1.0	1・2					比較政治に関する文献を手がかりとして、世界および日本における政治現象や政治的諸課題を比較研究するために必要な視点・分析枠組・因果推論の基礎を紹介する。	西暦奇数年度開講。
01DR150	グローバル社会の比較政治4A	1	1.0	1・2					世界および日本における政治現象や政治的諸課題について、比較政治学の観点から量的・質的に研究するために必要な視点・分析枠組・因果推論のあり方について、有力な先行研究を紹介しながら幅広く議論する。	西暦奇数年度開講。
01DR151	グローバル社会の比較政治4B	1	1.0	1・2					世界および日本における政治現象や政治的諸課題について、比較政治学の観点から量的・質的に研究するために必要な視点・分析枠組・因果推論のあり方について、有力な先行研究を紹介しながら幅広く議論する。	西暦奇数年度開講。
01DR154	日本政治と市民社会2A	1	1.0	1・2					日本の市民社会と政治との関係についての基本的な知識を概説するとともに、データを交えながら、その実態を紹介していく。とりわけ、比較政治社会的な視点から、日本の市民社会の特徴を考察する。	西暦奇数年度開講。 01DR492と同一。
01DR155	日本政治と市民社会2B	1	1.0	1・2					日本の市民社会と政治との関係についての基本的な知識を概説するとともに、データを交えながら、その実態を紹介していく。とりわけ、比較政治社会的な視点から、日本の市民社会の特徴を考察する。	西暦奇数年度開講。 01DR493と同一。
01DR201	グローバル経済論(世界経済史)1A	1	1.0	1・2					グローバル経済の展開を歴史的にみる観点から、日本、アジア、ドイツをはじめとするヨーロッパ、アメリカなど各国の経済発展とそれを支える社会経済的基盤の形成と変容について学ぶ。	少人数で基礎的文献の輪読と議論を行う。 西暦奇数年度開講。 01DQ265と同一。 出席・参加および期末レポートにより評価する。
01DR202	グローバル経済論(世界経済史)1B	2	1.0	1・2					各国の経済発展とそれを支える社会経済的基盤の形成と変容について、参加者一人一人が報告をし、それを題材として国際比較の観点から議論を行う。	参加者の論文準備報告を行い、それにもとづいて全体で討論する。 西暦奇数年度開講。 01DQ266と同一。 出席・報告および期末レポートで評価する。
01DR203	グローバル経済論(世界経済史)2A	1	1.0	1・2	春AB	水3		田中 洋子	グローバル経済の展開を歴史的にみる観点から、日本、アジア、ドイツをはじめとするヨーロッパ、アメリカなど各国の経済発展とそれを支える社会経済的基盤の形成と変容について学ぶ。	基礎的文献を読みながら議論を深める。 西暦偶数年度開講。 01DQ267と同一。 出席・参加および期末レポートで評価する。
01DR204	グローバル経済論(世界経済史)2B	2	1.0	1・2	秋AB	水3		田中 洋子	各国の経済発展とそれを支える社会経済的基盤の形成と変容について、参加者一人一人が報告をし、それを題材として国際比較の観点から議論を行う。	論文準備報告を行い、全員で討論する。 西暦偶数年度開講。 01DQ268と同一。 出席・報告および論文草稿提出により評価する。
01DR205	グローバル経済と日本(金融と日本社会)1A	1	1.0	1・2					この講義の目的は、金融論の基本的議論を19世紀から現在までの日本経済の発展を事例として学ぶことである。本講義では、特に、債権・債務関係、貨幣および決済の視点を中心に、各種の金融問題を整理する。金融11は、日本の銀行システムの歴史的形成過程や機能について学ぶ。高度成長期、バブル経済の崩壊、非伝統的金融政策について概観する。頼母子講や機合等の民間金融の世界についても触れる。参加者には、授業で扱った金融問題のいずれかの論点について、日本の歴史的経験と他国の歴史的経験を比較する形で検討する課題が与えられる。例えば、プレゼンテーションを行ってもらったうえで、期末レポートとしてまとめてもらう。	0ABE064と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR206	グローバル経済と日本(金融と日本社会)1B	2	1.0	1・2					金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	西暦奇数年度開講。
01DR207	グローバル経済と日本(金融と日本社会)2A	1	1.0	1・2					金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	西暦奇数年度開講。
01DR208	グローバル経済と日本(金融と日本社会)2B	2	1.0	1・2					金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	西暦奇数年度開講。
01DR209	グローバル経済と日本(金融と日本社会)3A	1	1.0	1・2					金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	西暦偶数年度開講。 2020年度開講せず。
01DR210	グローバル経済と日本(金融と日本社会)3B	2	1.0	1・2					金融の長期的発展を通じて、日本社会とグローバル社会の関わりを検討する。	西暦偶数年度開講。 2020年度開講せず。
01DR213	グローバル経済と日本(企業経営史)1A	1	1.0	1・2					日本企業における企業家活動、事業展開および企業成長の歴史について多角的に検討する。	西暦奇数年度開講。
01DR214	グローバル経済と日本(企業経営史)1B	2	1.0	1・2					日本企業の事業展開と組織革新の歴史について多角的に検討する。	西暦奇数年度開講。
01DR215	グローバル経済と日本(企業経営史)2A	1	1.0	1・2	春A	木5,6	1B204	平沢 照雄	日本企業における企業家活動、事業展開および企業成長の歴史について多角的に検討する。	西暦偶数年度開講。
01DR216	グローバル経済と日本(企業経営史)2B	2	1.0	1・2	秋A	木5,6		平沢 照雄	日本企業の事業展開と組織革新の歴史について多角的に検討する。	西暦偶数年度開講。
01DR217	グローバル経済と日本(地域経済史)1A	1	1.0	1・2					グローバル競争下における地域経済を考察する歴史的前提として地域経済発展の構造と歴史について検討する。	西暦奇数年度開講。
01DR218	グローバル経済と日本(地域経済史)1B	2	1.0	1・2					経済のグローバル化が進むなかでの地域経済について理解する歴史的前提として地域経済の発展を支えてきた産業構造の歴史について検討する。	西暦奇数年度開講。
01DR219	グローバル経済と日本(地域経済史)2A	1	1.0	1・2	春B	木5,6	1B204	平沢 照雄	グローバル競争下における地域経済を考察する歴史的前提として地域経済発展の構造と歴史について検討する。	西暦偶数年度開講。 グローバル経済と日本(企業経営史)1か同2の履修を前提とする。
01DR220	グローバル経済と日本(地域経済史)2B	2	1.0	1・2	秋B	木5,6		平沢 照雄	経済のグローバル化が進むなかでの地域経済について理解する歴史的前提として地域経済の発展を支えてきた産業構造の歴史について検討する。	西暦偶数年度開講。 グローバル経済と日本(企業経営史)1か同2の履修を前提とする。
01DR221	グローバル教育論(比較歴史教育)1A	1	1.0	1・2					比較教育学の理論を学びながら、グローバルな共生社会における歴史教育のあり方について、特に日本とそれを取り巻く東アジア諸外国の事例について比較検討する。(While understanding theories of Comparative Education, students make international comparative analysis about history education in an age of global society.)	西暦奇数年度開講。 01DR310, 01DR476と同一。
01DR222	グローバル教育論(比較歴史教育)1B	2	1.0	1・2					春学期に行った内容踏まえ、更に具体的事例について、学生の研究発表を中心に比較検討する。(Based on studies in the Spring Term, students make presentations on their own research on cases of history education.)	西暦奇数年度開講。 01DR311, 01DR477と同一。
01DR223	グローバル教育論(比較歴史教育)2A	1	1.0	1・2	春AB	火5		柴田 政子	比較教育学の理論を学びながら、グローバルな共生社会における歴史教育のあり方について、特に日本とそれを取り巻く東アジア諸外国の事例について比較検討する。(While understanding theories of Comparative Education, students make international comparative analysis about history education in an age of global society.)	西暦偶数年度開講。 01DP682, 01DR312, 01DR478と同一。
01DR224	グローバル教育論(比較歴史教育)2B	2	1.0	1・2	秋AB	火5		柴田 政子	春学期に行った内容踏まえ、更に具体的事例について、学生の研究発表を中心に比較検討する。Follow-up of the Spring term course and analyse given specific topics in comparative perspectives through students' presentation.	西暦偶数年度開講。 01DP684, 01DR313, 01DR479と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR233	グローバル社会と日本 (法と市民社会)1A	1	1.0	1					近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する。	OABE073と同一。 2020年度開講せず。
01DR234	グローバル社会と日本 (法と市民社会)1B	2	1.0	1					近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する。「法と市民社会1A」とは異なるトピックスを扱う。	OABE074と同一。 2020年度開講せず。
01DR235	グローバル社会と日本 (法と市民社会)2A	1	1.0	2					市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。	西暦奇数年度開講。
01DR236	グローバル社会と日本 (法と市民社会)2B	2	1.0	2					市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。	西暦奇数年度開講。
01DR237	グローバル社会と日本 (法と市民社会)3A	1	1.0	1	春AB	応談		根本 信義	近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する。「法と市民社会1A,1B」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OABE373と同一。
01DR238	グローバル社会と日本 (法と市民社会)3B	2	1.0	1	秋AB	応談		根本 信義	近代市民社会において成立した法は、一定の理念、価値に基づいている。他方、グローバル化、情報化、少子高齢化が進む中で、法は変容を続けている。このような中で、我々は、法の根底にある理念、価値を学び直し、変えてはいけないものと変えるべきものを切り分ける能力を持たなければならない。そこで、市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。授業計画と形式であるが、受講生からテーマを募り、そのテーマの理解に必要な基礎的知識について講義をした上で、そのテーマに関する具体的な事件や論争を取り上げ、討論する。「法と市民社会1A,1B,2A」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OABE374と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR239	グローバル社会と日本(法と市民社会)4A	1	1.0	2	春C	応談		根本 信義	市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。	西暦偶数年度開講。
01DR240	グローバル社会と日本(法と市民社会)4B	2	1.0	2	秋C	応談		根本 信義	市民社会において現に起きている事件や論争などの法的問題を、憲法、刑事法、民事法、他国との比較などの観点から検討し、法の理念、価値を理解した上で、現実の対応策を提言できるようになることを目指す。	西暦偶数年度開講。
01DR241	グローバル社会と日本(法と現代社会)1A	1	1.0	1・2					法は現代社会にとって役に立つのか立たないのか、立つとしてどの程度か、それはなぜか、といった問いについて、受講生各人が自分の頭で考え、調べ、結論を出すことができるようになることを目標とする。グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察するために、生殖医療、義務教育、校則、少年犯罪、就職活動等、現代日本の社会問題について法的な観点から講義した上で、質疑応答を行う。受講生は、各回のテーマについて、指定する教科書・参考書等を読んで理解を深め、新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通じて最新の情報を収集し、質疑応答に臨むことが要求される。	OABE075と同一。 2020年度開講せず。
01DR242	グローバル社会と日本(法と現代社会)1B	2	1.0	1・2					法は現代社会にとって役に立つのか立たないのか、立つとしてどの程度か、それはなぜか、といった問いについて、受講生各人が自分の頭で考え、調べ、結論を出すことができるようになることを目標とする。グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察するために、労働法、死刑制度、環境問題、多重債務者、安楽死・尊厳死、相続等、現代日本の社会問題について法的な観点から講義した上で、質疑応答を行う。受講生は、各回のテーマについて、指定する教科書・参考書等を読んで理解を深め、新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通じて最新の情報を収集し、質疑応答に臨むことが要求される。	OABE076と同一。 2020年度開講せず。
01DR243	グローバル社会と日本(法と現代社会)2A	1	1.0	1・2	春AB	木3		宮坂 渉	法は現代社会にとって役に立つのか立たないのか、立つとしてどの程度か、それはなぜか、といった問いについて、受講生各人が自分の頭で考え、調べ、結論を出すことができるようになることを目標とする。グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察するために、生殖医療、義務教育、校則、少年犯罪、就職活動等、現代日本の社会問題について法的な観点からディスカッションを行う。受講生は、各回のテーマについて、指定する教科書・参考書等を読んで理解を深め、新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通じて最新の情報を収集し、質疑応答に臨むことが要求される。	西暦偶数年度開講。 OABE375と同一。
01DR244	グローバル社会と日本(法と現代社会)2B	2	1.0	1・2	秋C	応談		宮坂 渉	法は現代社会にとって役に立つのか立たないのか、立つとしてどの程度か、それはなぜか、といった問いについて、受講生各人が自分の頭で考え、調べ、結論を出すことができるようになることを目標とする。グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察するために、労働法、死刑制度、環境問題、多重債務者、安楽死・尊厳死、相続等、現代日本の社会問題について法的な観点からディスカッションを行う。受講生は、各回のテーマについて、指定する教科書・参考書等を読んで理解を深め、新聞・テレビ・インターネット等のメディアを通じて最新の情報を収集し、質疑応答に臨むことが要求される。	西暦偶数年度開講。 OABE376と同一。
01DR245	グローバル社会と日本(法と現代社会)3A	1	1.0	1・2					グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察する。	西暦奇数年度開講。
01DR246	グローバル社会と日本(法と現代社会)3B	2	1.0	1・2					グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察する。	西暦奇数年度開講。
01DR247	グローバル社会と日本(法と現代社会)4A	1	1.0	1・2	春A	応談		宮坂 渉	グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察する。	西暦偶数年度開講。
01DR248	グローバル社会と日本(法と現代社会)4B	2	1.0	1・2	秋C	応談		宮坂 渉	グローバル社会における日本が抱える現代的な法的問題について考察する。	西暦偶数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR249	グローバル社会と日本(企業論)1	1	1.0	1	秋B	集中	人社A422		激動のグローバル時代における企業のあり方について事例を交えつつ探る。	02DME52と同一。
01DR254	グローバル環境と日本経済1A	1	1.0	1・2					環境経済学の観点より、日本における環境・経済・社会の諸課題および地球環境と持続可能な開発について議論し、関連する研究アプローチを紹介する。	西暦奇数年度開講。
01DR255	グローバル環境と日本経済1B	2	1.0	1・2					本講義では持続可能な開発・経済成長の分析に必要な基礎的な経済成長理論であるソロー・スワンモデルを習得する。経済成長の基本要因を学んだ上で、貧困、所得分布、文化・社会、地理的要因に焦点を当てて経済成長の各国間の差異の決定要因について理解する。さらに気候変動による生産性の変化や自然災害などについても検討する。習得した経済成長理論をもとに様々な環境問題と持続可能な成長のための環境政策を分析・議論する能力を身につけることを目標とする。	0ABE363と同一。 2020年度開講せず。
01DR256	グローバル環境と日本経済2A	1	1.0	1・2	春AB	水1		生藤 昌子	本講義では持続可能な開発・経済成長の分析に必要な基礎的な経済成長理論であるソロー・スワンモデルを習得する。主に物的・人的資本蓄積、人口、生産性、技術進歩に焦点を当てて経済成長の決定要因を学び、生産要素としての自然資源の重要性を理解する。さらに経済成長が環境に影響を与え、環境の質が生産性に大きく影響するメカニズムを学ぶことにより、持続可能な開発・経済成長において人的資本蓄積と技術進歩の重要性についての理解を深めることを目標とする。	0AA3013と同一。
01DR257	グローバル環境と日本経済2B	2	1.0	1・2	秋A	水1,2		生藤 昌子	地球環境と持続可能な開発および日本経済発展の分析に必要な分析方法を修得する。	
01DR258	グローバル環境と日本経済3A	1	1.0	1・2					環境経済学の観点より、地球環境問題と日本における環境・経済・社会の諸課題について検討する。	西暦偶数年度開講。 2020年度開講せず。
01DR259	グローバル環境と日本経済3B	2	1.0	1・2					環境経済学の観点より、地球環境問題と日本における環境・経済・社会の諸課題について検討する。	西暦偶数年度開講。 2020年度開講せず。
01DR260	グローバル環境と日本経済4A	1	1.0	1・2					地球環境と持続可能な開発および日本経済発展の分析に必要な分析方法を修得する。	西暦偶数年度開講。 2020年度開講せず。
01DR261	グローバル環境と日本経済4B	2	1.0	1・2					地球環境と持続可能な開発および日本経済発展の分析に必要な分析方法を修得する。	西暦偶数年度開講。 2020年度開講せず。
01DR262	グローバル経済と日本(日本経済発展論)1	1	1.0	1・2	春C	集中		高橋 秀直	この講義の目的は、19世紀から現在までの日本経済の発展について学ぶことである。本講義では、特に、中心国と周辺国の間の非対称的な国際関係の視点から、19世紀の日本経済がグローバル経済に参入する際に直面した課題を検討する。現在の日本は世界経済をけん引する国の一つとなったが、19世紀末においては、当時のグローバル経済に関わり始めたばかりの新興国の一つであった。当時の日本経済の経験を学ぶことは、現在のグローバル経済に関わらざるを得ない新興国にとっても有益な示唆を与えるであろう。参加者には、中心国と周辺国の非対称的な関係という視点から、ある国の歴史的な発展過程を検討する課題が与えられる。	いずれも3~4時限に実施。 01DZ140, 0ABE065と同一。 所属主専攻の科目番号で履修登録すること。

専門科目(国際日本複合研究学位プログラム)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR301	東アジアの家と社会問題特別授業1	1	1.0	1・2	秋C	応談		佐藤 貢悦	東アジアの家と社会問題の科目群について、授業の目的と展望などを概説する。	
01DR302	現代アジアの家と家庭教育1	1	1.0	1・2					「家」、「家族」など基本的な概念について検討し、さらに中国を主たる対象とする家庭教育の課題について考察する。	西暦奇数年度開講。 01DR541と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR303	日本社会と家1A	1	1.5	1・2					人類(ホモ・サピエンス)の社会・経済・家族の普遍的な特質を霊長類進化の観点からとらえたうえで、日本の貨幣経済やそれと関連の深いイエ(日本の「家」)の成立をもたらした思想の伝播を解明する。	西暦奇数年度開講。01DR551と同一。
01DR304	日本社会と家1B	2	1.5	1・2					日本の経済思想やイエ(「日本の家」)の特質がどのように形成されたのかをみる。	西暦奇数年度開講。01DR552と同一。
01DR305	韓国の家1	1	1.0	1・2	春AB	火5		嚴 錫仁	韓国社会における「家」について他文化圏との比較考察を交えつつ学ぶ。韓国の「家」は、伝統的に儒教思想の強い影響下にあったが、植民地の時代を経ながら、また近代化の進行の中で変貌を余儀なくされている。現代においては高齢化問題、少子化問題の深刻化が進み、政治・社会・経済の変動にともなう、老父母扶養の問題、夫婦間の役割問題、親子間の価値観問題なども顕在化している。この授業では、朝鮮時代を中心とする韓国の伝統的な「家」像と、近代化の過程で現れている「家」の現住所について、家族制度、家族倫理、家庭教育といった側面から、他文化圏との比較考察を交えつつ、その模様を考察する。韓国の家族制度、家族倫理、家庭教育に関する原典資料および研究書・論文を読みながら、討議・説明する。	西暦偶数年度開講。0ABE311と同一。
01DR310	日本と東アジアの比較歴史教育1A	1	1.0	1・2					比較教育学の理論を学びながら、グローバルな共生社会における歴史教育のあり方について、特に日本とそれを取り巻く東アジア諸外国の事例について比較検討する。(While understanding theories of Comparative Education, students make international comparative analysis about history education in an age of global society.)	西暦奇数年度開講。01DR221, 01DR476と同一。
01DR311	日本と東アジアの比較歴史教育1B	2	1.0	1・2					春学期に行った内容踏まえ、更に具体的事例について、学生の研究発表を中心に比較検討する。(Based on studies in the Spring Term, students make presentations on their own research on cases of history education.)	西暦奇数年度開講。01DR222, 01DR477と同一。
01DR312	日本と東アジアの比較歴史教育2A	1	1.0	1・2	春AB	火5		柴田 政子	比較教育学の理論を学びながら、グローバルな共生社会における歴史教育のあり方について、特に日本とそれを取り巻く東アジア諸外国の事例について比較検討する。(While understanding theories of Comparative Education, students make international comparative analysis about history education in an age of global society.)	西暦偶数年度開講。01DP682, 01DR223, 01DR478と同一。
01DR313	日本と東アジアの比較歴史教育2B	2	1.0	1・2	秋AB	火5		柴田 政子	春学期に行った内容踏まえ、更に具体的事例について、学生の研究発表を中心に比較検討する。Follow-up of the Spring term course and analyse given specific topics in comparative perspectives through students' presentation.	西暦偶数年度開講。01DP684, 01DR224, 01DR479と同一。
01DR315	日本社会と外交1A	1	1.0	1・2					This course examines the historical background of modern Japanese foreign relations with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged. Those who are taking this course shall also take 日本社会と外交1B (01DR316).	西暦奇数年度開講。01DF596, 01DR106, 01DR472, 01DZ562と同一。
01DR316	日本社会と外交1B	1	1.0	1・2					This course examines Japanese foreign relations during and after the Cold War era with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged. Those who are taking this course shall also take 日本社会と外交1A (01DR315).	西暦奇数年度開講。01DF597, 01DR107, 01DR473, 01DZ563と同一。
01DR317	日本社会と外交2A	2	1.0	1・2					本講義においては近現代日本の対外政策の形成過程とその背景に関する研究資料や文献を講読し、その内容への理解を深めると同時に、日本外交に関する歴史的研究の基礎的な方法論を習得する。講義内容は原則として1890年以降の日本外交を対象とするが、第二次世界大戦後のいわゆる「冷戦時代」(1940年代から90年代初頭まで)及び「ポスト冷戦時代」にウェイトを置く。主として和文文献を使用するが、必要に応じて英文資料も適宜取り上げる。「日本の対外関係1」を併せて履修すること。	0ABE344と同一。2020年度開講せず。英語で授業。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR318	日本社会と外交2B	2	1.0	1・2	秋AB	火4		潘 亮	本講義は現代日本の対外政策の形成とその歴史的背景を、政治及び安全保障面を中心に、議論するものである。更に、現代日本の対外関係に関する歴史的な研究の方法論についても適宜に議論する。本講義は1890年代以降の時代を対象とするが、第二次世界大戦終戦後の時代(1940年代後半から1980年代後半までの「冷戦期」並びに「ポスト冷戦期」)に重点を置く。講義は原則的に英語で行われる。教科書や各種資料も英語の出版物を中心に選定する。講義中、活発な議論を強く奨励する。なお、本講義を履修するには「Foreign Relations of Japan I」も併せて履修することが必要である。	西暦偶数年度開講。 OABE345と同一。 英語で授業。
01DR319	アジア移民社会論1A	1	1.0	1・2					主にアジア地域の人の国際移住に関係する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	西暦奇数年度開講。 01DP767, 01DR480と同一。
01DR320	アジア移民社会論1B	1	1.0	1・2					主にアジア地域の人の国際移住に関係する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	西暦奇数年度開講。 01DR481と同一。
01DR321	アジア移民社会論2A	1	1.0	1・2	春AB	火6		明石 純一	主にアジア地域の人の国際移住に関係する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	西暦偶数年度開講。 01DR482と同一。
01DR322	アジア移民社会論2B	1	1.0	1・2	秋AB	火6		明石 純一	主にアジア地域の人の国際移住に関係する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	西暦偶数年度開講。 01DR483と同一。
01DR323	表象文化論から見た日本1A	1	1.0	1・2	秋AB	水3		渡部 宏樹	家族を描いた日本映画を見て、第二次世界大戦後の日本社会の変化と家族の表象を変遷を学ぶ。	西暦偶数年度開講。 01DR557と同一。
01DR324	表象文化論から見た日本1B	1	1.0	1・2					家族を描いた日本映画を見て、第二次世界大戦後の日本社会の変化と家族の表象を変遷を学ぶ。	西暦奇数年度開講。 01DR558と同一。
01DR325	日本社会と家3	1	1.0	1・2	秋AB	月4		平山 朝治	日本の伝統的な家業経営体であるイエの構造、その組織原理としての特性やイエが育む個人主義を歴史比較制度分析の視点からとらえることを目指す。イエとは何か、氏(ウジ)からイエへ、イエ社会の経済秩序、イエの普及と資本主義の発達、イエ社会の産業化、イエ社会と「外部」の人々、といった論点を、平山朝治『イエ社会と個人主義：日本型組織原理の再検討』(日本経済新聞社、1995年)をテキストとして講義する。	西暦偶数年度開講。 OABE310と同一。
01DR342	アジアと日本における心身論1	1	1.0	1・2	春AB	木2		佐藤 貢悦	アジアと日本および欧米の比較文化論を用い、その特有の心理・身体の形成について考察する。	西暦偶数年度開講。 01DR544と同一。
01DR343	アジア的心身論1	1	1.0	1・2	秋AB	集中	人社A422		アジア人の心身のありようについて、西洋近代文化の影響を考察しつつ論じる。	02DML03と同一。
01DR345	身体とコミュニケーション1	1	1.0	1・2	春C 夏 休業中	集中			コミュニケーションにおいて身体の果たす多様な役割について考察・実感することを目指す。	02DML05と同一。
01DR348	身体と文化1	2	1.0	1・2	春AB	月2		清水 諭	身体とその文化を切り所にして、文化と社会に関する理論を検討する。その中で、人種、民族、ジェンダー、セクシュアリティ、階級、ナショナリティと、アイデンティティ、ライフスタイル、社会変動、そして社会運動について考える。	01EH157と同一。
01DR349	身体・スポーツ・文化	1	1.0	1・2	春C	集中		清水 諭	スポーツイベントとその背景を学び、映像メディアを介した身体の文化政治(人種、民族、ジェンダー、ナショナリティなど)の歴史と現在について考える。	01EH403と同一。
01DR350	日本古典文化と身体1	1	1.0	1・2					東洋思想では気をもって人間の身体を説明し、その関連で養生論を発達させてきた。広く東洋思想の中の気論・養生論を概観しながら、日本の古典に現れる気・養生論の特徴を考察する。この授業を通して、東洋思想の中の気論、養生論について知識を広め、日本的な気論と養生論の特徴を理解する。東洋思想と日本思想の中の気論、養生論に関する原典資料および研究書・論文を読みながら、討議・説明する。特に貝原益軒の『養生訓』について詳論する。	OABE314と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR381	日本とアジアのメディア・情報・技術・科学・社会特別授業1	1	1.0	1・2					日本とアジアのメディア・情報・技術・科学・社会の科目群について、授業の目的と展望などを概説する。	西暦奇数年度開講。
01DR382	日本のエンターテインメントと社会経済1	1	1.5	1・2	春AB	月5			音源・映像を視聴しながら、比較歴史制度分析の観点から日本のアイドルの特質を考え、さらに、幕末明治維新以来の日本経済の長期波動とアイドルの変遷との関連を考える。	西暦偶数年度開講。
01DR383	ソフト・パワーのメディア文化政策1	1	1.0	1・2					本授業はメディア研究の生成とその歴史的社会的背景を考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究にはそのような歴史的社会的背景が色濃く影響している。本授業では、メディア研究やその中の種々の理論や批評がいかんして生まれたのかを歴史的社会的連関の中で考察し、そこから透過できる日本社会とメディア思想についての理解を深めることを目的としている。授業は適切なメディア研究と近現代日本史に関するテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつうじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。	OABE031と同一。 2020年度開講せず。
01DR384	比較広告・宣伝論1	1	1.0	1・2	秋C	金5,6		白戸 健一郎	本授業は、メディア研究の生成とその歴史的社会的背景について、新聞・映画・ラジオ・テレビなどの各メディアとの比較メディア史的観点及び欧米やアジア諸国と日本との国際比較の観点から、考えるものである。マス・メディアが誕生して以降、メディアは政治経済文化などさまざまな現象に影響を与え、また影響を受けてきた。メディア研究やメディアを考察するメディア思想にはそのような社会現象が強く刻印されている。メディア研究やメディア思想への考察から、社会や政治や文化の国ごとの特質や共通性について理解できるようになる。授業はメディア史やメディア思想に関する適切なテキストを選別し、担当箇所を受講生が報告し、全体で議論を進め、理解を深めていく輪読形式をとる。これをつうじて先行研究の把握と論文における課題設定の方法、論理的実証的な研究の進め方について学習する。「比較メディア思想1」とは異なるトピックスを扱う。	西暦偶数年度開講。 OABE332と同一。
01DR387	比較情報社会1	1	1.0	1・2	春C夏季休業中	集中	人社A422		各地域・文化圏における情報技術と社会の関わり方の差異を考察する。	O2DMM06と同一。
01DR388	アジアのCMC 1	1	1.0	1・2					この授業では、メディアとコミュニケーションの研究方法に関する文献を輪読する。主にメディア研究方法について学習する。メディアの実証研究の読み方及び実証研究を実施する際に必要になる能力を習得することを目標とする。指定された文献を図書館のデータベースよりダウンロードし、授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。「メディア研究1」とは異なるトピックスを扱う。	OABE330と同一。 2020年度開講せず。
01DR390	インターネットと市民社会1	1	1.0	1・2					この授業は英語でメディアに関する研究方法を学習する。実証研究における分析手法を学ぶ。多変量解析などの活用方法を理解できるようになる。この授業では、指定された文献を図書館のデータベースよりダウンロードし、授業のときまでに読み、事前にレポートをウェブにて提出する。授業では文献に関するディスカッションとプレゼンテーションを行い、他の履修生と情報共有し、授業後にその活動内容を報告する。これを、各回実施する。「Media Research1」とは異なるトピックスを扱う。	OABE370と同一。 2020年度開講せず。
01DR391	日本社会・政治とインターネット1	1	1.0	1・2	秋C	集中	人社A422		地域情報化政策の観点から、社会の情報化ついてを事例を交えて検証する。	O2DMM11と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR394	日本のエンターテインメントと社会経済3	1	1.0	1・2	春AB	月5		平山 朝治	比較歴史制度分析の観点から日本のアイドルの特質を明らかにし、明治以降の日本経済の長期波動とアイドル・ブームの関係を、映像・音源を視聴しながら検討することを通して、現代日本の社会経済と文化についての洞察を深めることをめざす。平山朝治「アイドル150年: アイドル・ブームと長期波動」『経済学論集』70号、2018年、 http://doi.org/10.15068/00150843 などをテキストとして講義する。	OABE315と同一。
01DR421	アカデミック翻訳特別授業1	1	1.0	1・2					翻訳や翻案に関わる学術集会に参加することによって、視野を広げ、アカデミックな場において翻訳や翻案がどのように議論されているのかを学ぶ。	西暦奇数年度開講。
01DR422	翻訳からみた日本と東アジアの文化1	1	1.0	1・2					漢字・漢文は日本語・日本文化の形成と発展にとって二重的構造を持つ他者である。この授業では、固有の日本語に対する「漢語」、大陸の文化を受け入れるために独自に発展させてきた「訓読」、そして明治期の西洋文明の導入における「翻訳」を対象として、日本文化における漢字・漢文・翻訳の問題の諸相を考察する。荻生徂徠の『訳文筌蹄』をはじめとして、これらの問題に関わる研究書や論文を紹介し一緒に読みながら、討議・説明していく。	OABE316と同一。 2020年度開講せず。
01DR423	日本の精神文化と翻訳1	1	1.0	1・2					学術用語、文化用語としての日本語は、地域言語として、古くは中国語、新しくは欧米諸語、現在はほぼ英語という、世界言語に従属する形で、それらのキーワードを直輸入、翻訳、修正しながら、知的営みを積み重ねてきた。そのうち、明治以降の欧米諸語の輸入、翻訳に焦点を絞り、いくつかの問題点を再検討する。とくに、翻訳語とされているキーワードのうち、日本オリジナルのものがあることに注目して、その成立の経緯を考察する。	OABE317と同一。 2020年度開講せず。
01DR424	日本とアジアの相互理解のための翻訳1	1	1.0	1・2					近代の日本語はどのようにして成立したのかについて、三上章、柳父章の理論を手がかりにししながら考察し、あわせて中国語と英語の対訳資料を用いながら翻訳のためのスキルについて検討する。	西暦奇数年度開講。
01DR425	異文化理解のための日本語翻訳1	1	1.0	1・2					よりよい翻訳に求められる異文化への眼差しについての講義である。	2020年度開講せず。
01DR427	日本文学と翻訳	1	1.0	1・2					翻訳理論を学びながら、日本文学の翻訳について考察する。	西暦奇数年度開講。 01DR581と同一。
01DR428	言語政策と日本語論1	1	1.0	1・2	秋C	集中	人社A422		言語政策に関する是非を検討し、よりよき国際コミュニケーションのあり方について学ぶ。	O2DMN11と同一。
01DR429	異文化相互理解のための通訳1	1	1.0	1・2	秋C	水1,2	共同A604	川崎 レスリー タック	異なる国の言葉を短期間に正確にとらえ、伝える通訳という観点から、異なる文化を如何に理解すべきについて講義、実践する。 During this course, students will be introduced to the theoretical and practical study of interpreting. First, we will look at theories about interpreting as well as methods; then we will focus on practical exercises in interpreting. We will be interpreting both ways in English and Japanese.	西暦偶数年度開講。 英語で授業。
01DR430	異文化対話のための翻訳1	1	1.0	1・2					(Not Offered in the 2015-16 academic year; offered in the 2016-17 academic year.) 異なる国の言葉で書かれた文章を理解するには、語学力のほか、その文化も知らなければならぬ。文章という対話の形から、異なる文化を如何に理解すべきについて講義、実践する。	西暦奇数年度開講。 英語で授業。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR431	研究方法と研究倫理	0	1.0	1・2	秋AB	木2.5		川崎 レスリー タック	This is an introductory course in academic writing and research ethics for postgraduate students, and is particularly aimed at first-year M.A. students. Through a series of readings and discussions, students will learn the fundamental aspects of ethically conscious research design. The course will also cover how to structure research projects (mainly M.A. theses), create work-able research questions, undertake appropriate methodological approaches, as well as objectively assess and present the findings. Students should be prepared to reflect the readings and discussion topics in their choice of research projects through short in-class presentations and self-study. Course assessment details (grading assessment) will be distributed on the first day of the class.	01DP807と同一。英語01DP807, 01DZ141と同一。 英語で授業。 所属主専攻の科目番号で履修登録すること。
01DR464	比較労働・社会政策1A	1	1.0	1・2					日本、アジア、ドイツをはじめとするヨーロッパ、アメリカなど各国の働き方の歴史および現状についての分析を行い、国際比較の観点から議論するとともに、対応する労働政策・社会政策のあり方を考察する。	基礎的文献の輪読・報告およびそれにもとづいた議論を行う。 西暦奇数年度開講。 01DP666と同一。 出席・参加および期末レポートで評価する。
01DR465	比較労働・社会政策1B	2	1.0	1・2					各国の労働システムをはじめとする社会経済体制について、参加者一人一人が報告をし、それを題材として国際比較の観点から議論を行う。	参加者の論文準備報告を行い、全体で議論する。 西暦奇数年度開講。 01DP667と同一。 出席・報告および期末レポートにより評価する。
01DR466	比較労働・社会政策2A	1	1.0	1・2	春AB	水2		田中 洋子	日本、アジア、ドイツをはじめとするヨーロッパ、アメリカなど各国の働き方の歴史および現状についての分析を行い、国際比較の観点から議論するとともに、対応する労働政策・社会政策のあり方を考察する。	基礎的文献を輪読しつつ、講義と議論を行う。 西暦偶数年度開講。 01DP668と同一。 出席・参加および期末レポートで評価する。
01DR467	比較労働・社会政策2B	2	1.0	1・2	秋AB	水2		田中 洋子	各国の労働システムをはじめとする社会経済体制について、参加者一人一人が報告をし、それを題材として国際比較の観点から議論を行う。	参加者の論文準備報告を行い、全体で議論を行う。 西暦偶数年度開講。 01DP669と同一。 出席・報告および論文草稿提出により評価する。
01DR468	国際政治と共生1A	1	1.0	1・2					This course explores conflict and cooperation among Asian countries involving political, military, economic, and cultural issues.	西暦奇数年度開講。 01DF590と同一。
01DR469	国際政治と共生1B	3	1.0	1・2					This course explores conflict and cooperation among Asian countries involving political, military, economic, and cultural issues.	西暦奇数年度開講。 01DF591, 01DZ531と同一。
01DR470	国際政治と共生2A	3	1.0	1・2	春AB	火5		大友 貴史	This course explores conflict and cooperation among Asian countries involving political, military, economic, and cultural issues.	西暦偶数年度開講。 01DF592, 01DZ532と同一。
01DR471	国際政治と共生2B	2	1.0	1・2	秋AB	木4		大友 貴史	This course explores conflict and cooperation among Asian countries involving political, military, economic, and cultural issues.	西暦偶数年度開講。 01DF593, 01DZ533と同一。
01DR472	日本の対外関係とグローバル共生1A	1	1.0	1・2					This course examines the historical background of modern Japanese foreign relations with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged. Those who are taking this course shall also take 日本社会と外交1B (01DR316).	西暦奇数年度開講。 01DF596, 01DR106, 01DR315, 01DZ562と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR473	日本の対外関係とグローバル共生1B	1	1.0	1・2					This course examines Japanese foreign relations during and after the Cold War era with an emphasis on the political and security spheres. Active participation in class discussions is strongly encouraged. Those who are taking this course shall also take 日本社会と外交1A (01DR315).	西暦奇数年度開講。01DF597, 01DR107, 01DR316, 01DZ563と同一。
01DR476	教育とグローバル共生社会1A	1	1.0	1・2					比較教育学の理論を学びながら、グローバルな共生社会における歴史教育のあり方について、特に日本とそれを取り巻く東アジア諸外国の事例について比較検討する。(While understanding theories of Comparative Education, students make international comparative analysis about history education in an age of global society.)	西暦奇数年度開講。01DR221, 01DR310と同一。
01DR477	教育とグローバル共生社会1B	2	1.0	1・2					春学期に行った内容踏まえ、更に具体的事例について、学生の研究発表を中心に比較検討する。(Based on studies in the Spring Term, students make presentations on their own research on cases of history education.)	西暦奇数年度開講。01DR222, 01DR311と同一。
01DR478	教育とグローバル共生社会2A	1	1.0	1・2	春AB	火5		柴田 政子	比較教育学の理論を学びながら、グローバルな共生社会における歴史教育のあり方について、特に日本とそれを取り巻く東アジア諸外国の事例について比較検討する。(While understanding theories of Comparative Education, students make international comparative analysis about history education in an age of global society.)	西暦偶数年度開講。01DP682, 01DR223, 01DR312と同一。
01DR479	教育とグローバル共生社会2B	2	1.0	1・2	秋AB	火5		柴田 政子	春学期に行った内容踏まえ、更に具体的事例について、学生の研究発表を中心に比較検討する。Follow-up of the Spring term course and analyse given specific topics in comparative perspectives through students' presentation.	西暦偶数年度開講。01DP684, 01DR224, 01DR313と同一。
01DR480	多文化共生論1A	1	1.0	1・2					主にアジア地域の人の国際移住に関する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	西暦奇数年度開講。01DP767, 01DR319と同一。
01DR481	多文化共生論1B	1	1.0	1・2					主にアジア地域の人の国際移住に関する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	西暦奇数年度開講。01DR320と同一。
01DR482	多文化共生論2A	1	1.0	1・2	春AB	火6		明石 純一	主にアジア地域の人の国際移住に関する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	西暦偶数年度開講。01DR321と同一。
01DR483	多文化共生論2B	1	1.0	1・2	秋AB	火6		明石 純一	主にアジア地域の人の国際移住に関する様々な社会的課題を題材として、今日の国際社会の理解を深める。おもに、この分野における主要基本文献の精読と解題をおこなう。	西暦偶数年度開講。01DR322と同一。
01DR486	政治とインターネット1A	4	1.0	1・2					The main purpose of this course is to provide students with an overview of issues and topics related to the information society in the world in general and Japan and south-east Asia in particular.	西暦奇数年度開講。01DP465, 01DZ570, 01EH041と同一。英語で授業。
01DR487	政治とインターネット1B	4	1.0	1・2					The main purpose of this course is to provide students with an overview of issues and topics related to the information society in the world in general and Japan and south-east Asia in particular.	西暦奇数年度開講。01DP466, 01DZ571, 01EH072と同一。英語で授業。
01DR488	政治とインターネット2A	4	1.0	1・2	春AB	応談		川崎 レスリー タック	The main purpose of this course is to provide students with an overview of issues and topics related to the information society in the world in general and Japan and south-east Asia in particular.	Fri.3 西暦偶数年度開講。01DP469, 01DZ572と同一。英語で授業。
01DR489	政治とインターネット2B	3	1.0	1・2	春AB	応談		川崎 レスリー タック	The main purpose of this course is to provide students with an overview of issues and topics related to the information society in the world in general and Japan and south-east Asia in particular.	Fri.4 西暦偶数年度開講。01DP470, 01DZ573と同一。英語で授業。
01DR490	グローバル共生の政治と市民社会1A	1	1.0	1・2	春AB	金2		山本 英弘	日本の政治や市民社会に関する日本語の文献を広く講読し、その内容を深く理解するとともに、社会科学における研究の方法等を修得する。とりわけ、比較という視座から日本の市民社会を相対化して捉えられるようになることを目指す。この授業では、市民社会に関する幅広い題材を取り扱う。	0AA3011と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR491	グローバル共生の政治と市民社会1B	1	1.0	1・2	秋AB	金2		山本 英弘	日本の政治や市民社会に関する英語の文献を広く講読し、その内容を深く理解するとともに、社会科学における研究の方法等を修得する。とりわけ、比較という視点から日本の市民社会を相対化して捉えられるようになることを目指す。この授業では、市民社会に関する幅広い題材を取り扱う。	OAA3012と同一。英語で授業。
01DR492	グローバル共生の政治と市民社会2A	1	1.0	1・2					日本の市民社会と政治との関係についての基本的な知識を概説するとともに、データを交えながら、その実態を紹介していく。とりわけ、比較政治社会的な視点から、日本の市民社会の特徴を考察する。	西暦奇数年度開講。01DR154と同一。
01DR493	グローバル共生の政治と市民社会2B	1	1.0	1・2					日本の市民社会と政治との関係についての基本的な知識を概説するとともに、データを交えながら、その実態を紹介していく。とりわけ、比較政治社会的な視点から、日本の市民社会の特徴を考察する。	西暦奇数年度開講。01DR155と同一。

専門科目(日本語教育学学位プログラム)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR711	日本語教育原論	1	1.0	1	春AB	水5	9P101	関崎 博紀, 小野正樹, 井出 里咲子, 高木 智世, ブッシュネル ケード コンラン, 一二三 朋子, 松崎 寛, 文 昶允	日本語教育に関する背景知識として、日本語の文法、聴解、会話、読解、作文、異文化コミュニケーション、語用論、学習者の心理、音声などに関して概説し、日本語教育領域に関連する専門知識を学ぶ。	人文社会科学研究科の学生で、日本語教育学学位プログラムの学生は必修。国際日本研究専攻の他プログラムの学生、他専攻の学生で「日本語教師養成プログラム」の履修を希望する場合も、この科目をとる必要がある。留学生の場合、日本語文化科目上級が履修可能なレベルであることが履修条件。参考文献として、佐々木泰子著『ベーシック日本語教育』(ひつじ書房)を読んでおくこと。そのほかは、適宜クラスで指示する。
01DR712	日本語教育研究概論	1	1.0	1	秋AB	水5	9P101	関崎 博紀, 小野正樹, 高木 智世, ブッシュネル ケード コンラン, ルート ヴァンパーレン, 伊藤 秀明, 文 昶允	日本語教育原論で学んだ基礎知識を踏まえ、日本語教育に関する研究論文を書くためのトレーニングを行う。	国際日本研究専攻の学生で、日本語教育学学位プログラムの学生は必修。参考文献および課題は、授業初日に指示する。
01DR717	日本語教育評価法	2	1.0	1	春AB	水6		関崎 博紀, 伊藤秀明, 小野 正樹, 井出 里咲子, 高木 智世, ブッシュネル ケード コンラン, ルート ヴァンパーレン, 文 昶允	日本語教育原論と連動する形で、日本語教育原論で学んだ指導方法をもとに、評価やテストニングについて考える。日本語の文法・会話・作文・読解・聴解、日本の社会や文化、異文化コミュニケーション、社会言語学、会話分析、語用論などの観点を踏まえつつ、学習効果の評価がいかに可能であるかを、テストの作成、インタビューやポートフォリオ作成といった実践を通して学ぶ。授業担当は日本語教育学コースを担当する教員がオムニバスで担当する。	国際日本研究専攻日本語教育学学位プログラムの学生で、「日本語教師養成プログラム」の履修を希望する場合は、この科目をとる必要がある。留学生の場合、日本語文化科目上級が履修可能なレベルであることが履修条件。OABE085と同一。参考文献は、適宜クラスで指示する。
01DR718	日本語教育のための会話分析	2	1.0	1	春C	月5, 6		ブッシュネル ケード コンラン	言語研究の中でも、20世紀後半から発達した、話者と聴者のコミュニケーションを扱う伝統的語用論研究、事態の認識方法に関わる認知言語学、人間関係維持を重んじたポライトネス理論の研究内容や手法を学ぶ。認知に関わる言語の主観性表現や、聴者や発話の場を鑑みた表現方法について、予め決められた発表者が該当論文を紹介する。発表者は論文の要旨を述べ、疑問点や議論したいテーマを設定する。それを受けて、受講者は具体的例を挙げながら、議論し、日本語教育上の問題点や、日本語教育への応用を考える。「日本語語用論研究」とは異なるトピックスを扱う。	OABE082と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR719	日本語教育のための機能文法	2	1.0	1・2	秋AB	月2		小野 正樹	言語研究の中でも、20世紀後半から発達した、話者と聴者のコミュニケーションを扱う伝統的語用論研究、事態の認識方法に関わる認知言語学、人間関係維持を重んじたポライトネス理論の研究内容や手法を学ぶ。認知に関わる言語の主観性表現や、聴者や発話の場を鑑みた表現方法について、予め決められた発表者が該当論文を扱う。発表者は論文の要旨を述べ、疑問点や議論したいテーマを設定する。それを受けて、受講者は具体的例を挙げながら、議論し、日本語教育上の問題点や、日本語教育への応用を考える。	0ABE381と同一。
01DR721	日本語教育のための文章表現論	2	1.0	1	秋C	応談		木戸 光子	文章・談話研究の中で日本語教育に関連の深いテーマを取り上げて、日本語の文章・談話の構造や表現について知見を深め、分析・記述の方法を学ぶことを目標とする。授業では、日本語教育に関連する基礎的な文献や最新の文献を取り上げ、文献講読と質疑応答、文章・談話の分析を行う。文献講読では類似したテーマの論文を比較し、批判的に検討する。文献講読はスライドを用いた口頭発表、文章表現分析課題はポスター発表とし、受講者の日本語による表現力の向上も目指す。	0ABE081と同一。 受講希望者は授業初日に必ず出席すること。
01DR723	日本語教育実践研究1	1	3.0	1	秋ABC	応談		小野 正樹, ブッシュネル ケード コンラン, ルート ヴァンバーレン, 関崎 博紀, 伊藤 秀明, 文 昶允	日本語教育の現場に1学期間(10週もしくは15週)参加し、授業の運営、教授・学習行動、教材開発などの実習を行う。指導は各クラスの担当教員が行い、授業補助をしながら教壇に立つ場合もある。 グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育部門の春学期の日本語コースにおいて授業見学などを行い、授業を担当する教員と事前に相談をしたうえで、夏休みまでに教育実習を行うクラスを決めておく必要がある。 「日本語教師養成プログラム」を履修している学生は必修科目である。	科目等履修生、学群生の参加は不可。 科目等履修生の履修は許可しない。
01DR724	日本語教育実践研究2	1	3.0	2	春ABC	応談		小野 正樹, ブッシュネル ケード コンラン, ルート ヴァンバーレン, 関崎 博紀, 伊藤 秀明, 文 昶允	初級レベルの学習者を対象に実際にクラス運営を行う。学生募集やクラスわけ、授業、評価を行う。	科目コーディネーター:木戸光子 kido.mitsuko_ff@u.tsukuba.ac.jp 履修希望者は、授業初日に必ず出席すること。科目等履修生の履修は許可しない。
01DR725	日本語教育実践研究3	1	3.0	1・2	秋ABC	応談		小野 正樹, ブッシュネル ケード コンラン, ルート ヴァンバーレン, 関崎 博紀, 伊藤 秀明, 文 昶允	国内外の日本語教育機関での日本語教育経験に関して、日本語教育実践2での実践内容に相当すると認められれば単位を付与する。	実践2の内容に該当する内容は、日本語教育学学位プログラムリーダー(小野正樹 ono.masaki_ga@u.tsukuba.ac.jp)に問い合わせること。 科目等履修生の履修は許可しない。
01DR731	日本語文化科目上級作文	2	1.5	1	春ABC	金2	共同 A601-1		研究のために書くこと、および書くことによって思考を深めることを目標とする。レポート・論文作成法の教科書の読解と作文練習、期末レポート作成を通して、レポートや論文の書き方を学習する。	授業希望者は授業初日に必ず出席すること。
01DR732	日本語文化科目上級会話・聴解	2	1.5	1					実際の会話資料を通して、聞き取り能力を高めるとともに、日本語による様々なやり取りのパターンなどを確認する。また、それぞれのパターンの応用によって、より高い相互行為能力を身に付けていく。受講生は会話資料を集めて文字化し、分析する。そして、分析の結果を発表したり、それを踏まえた応用練習や演技をする。	2020年度開講せず。
01DR734	会話分析A	1	1.0	1・2	春AB	金3	人社 A201	高木 智世	様々な言語使用状況の中でも最も一般的で社会的活動の根幹を成す「日常会話」を、社会学者であるSacks, Schegloff, Jeffersonらによって創始され、開発された「会話分析」の方法で分析する視点を学ぶ。分析の構えや基本的概念についての講義、および、具体的な事例の分析を通して、「会話分析」の手法の基礎を身につける。	01DE483と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01DR735	会話分析B	2	1.0	1・2	秋AB	金3	人社A201	高木 智世	様々な言語使用状況の中でも最も一般的で社会的活動の根幹を成す「日常会話」を、社会学者であるSacks, Schegloff, Jeffersonらによって創始され、開発された「会話分析」の方法で分析する視点を学ぶ。分析の構えや基本的概念についての講義、および、具体的な事例の分析を通して、「会話分析」の手法の基礎を身につける。	01DE484と同一。
01DR736	コミュニケーションの人類学A	1	1.0	1・2	春AB	水4		井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行為としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して解釈・記述する方法について学ぶ。授業では言語人類学、社会言語学の概論書および基本論文の講読をもとにを討議を行い、言語人類学研究の抱える問題意識について認識を深め、分析の視点と方法論についての知識を身につける。	01DE481, 01DQ080と同一。
01DR737	コミュニケーションの人類学B	2	1.0	1・2	秋AB	木3		井出 里咲子	文化社会的な場に埋め込まれた実践行為としてのコミュニケーションを、言語人類学の手法を通して解釈・記述する方法について学ぶ。授業では言語人類学、社会言語学の概論書および基本論文の講読をもとにを討議を行い、言語人類学研究の抱える問題意識について認識を深め、分析の視点と方法論についての知識を身につける。	01DE482, 01DQ083と同一。
01DR739	サービス場面におけるコミュニケーション	1	1.0	1	秋C	集中	人社A422		本講義では、広義にサービス場面をとらえ、様々な社会的制度場面のコミュニケーションのありようについて学び、実際のデータを見て分析する訓練を行なう。日常会話を扱った会話分析が基礎的会話分析だとすると、制度的場面での会話分析はその応用となる。どのような実践によって、相互行為上のストラテジーや資源を利用した社会的行為が産出可能になっているのか記述するという点では日常会話の会話分析研究とその目的が共通しているが、特に、サービス場面であるゆえにみられる、制度的目的に対する志向性など、相互行為の中で具現化される制度的特徴がどのように社会的行為を認識可能にしているのかに焦点を絞る。日本語のデータや、日本語教育に関連するような接触場面の研究事例も積極的に取り上げる予定である。	